

一 西行はさとりて後髪をそる 經

一 あま日にひまなし舟の上浪のそこ 鐘

一 紅の糸くさりて虫となる 虹

一 水魚ノ^{ヘツホッ}双テ成字 漁人

一 風終成雨聲 香又せウ鷹名

〔後奈良院御撰何會〕三輪のやまもりくる月はかげもなし

あかしの浦には月すます

瀧のひゞきに夢ぞおどろく

ゆきは下よりとけて水のうへそふ

春は花夏は卵のはな秋楓冬は氷のしたくゝる水

おと、ひもきのふもけふもこもりて月をも日をもおがまさりけり

おもふ事いはでたゞにややみぬべき我にひとしき人しなれば

ろはにほへと

ろはにほへと

いろはならへ

いちご岩なし

さい

やぶれ蚊帳

みづ

まへなは目あきうしろなは目くら

すぎまくら

はりまくら

あいさめ

弓

しきがは

御神樂

おしき

岩なし

さきおれかな

かななかけ

ちご

とのいもの

かいる

ゆでなし

み、す